

**台風18号豪雨に伴う岩木川の出水状況と治水事業効果について(速報)**

台風18号は、日本列島に甚大な被害をもたらしました。

岩木川直轄管理区間の全ての水位観測所において避難判断水位を超過し、さらには幡龍橋水位観測所(板柳町)と三世寺水位観測所(弘前市)では、観測史上第1位となる水位を観測するとともに、計画高水位を超過しました。

河口から34km付近(鶴田町)の堤防では、越水のおそれがありましたが水防団員のご尽力と、上流ダム(浅瀬石川ダムと目屋ダム)の防災操作により水位を約50cm低減させ、破堤による大氾濫を未然に防ぐことができました。

- 16日4時頃から19時頃までの間に集中し、岩木川水系の上流域に総雨量120mm以上の降雨がまんべんなく降った。特に平川上流域には総雨量180mm以上の豪雨が集中した。
- 幡龍橋水位観測所では観測史上第1位となる17.87mを記録するとともに、計画高水位17.23mを64cm上回り、約7時間にわたり超過した。
- 岩木川においては、古くから水害を未然に防ぐための堤防を整備してきたが、まだ無堤部が約1,800mあり、今回の出水により上中畑(三和)地区と大川・三世寺地区の2地区あわせて、床上浸水20戸、床下浸水66戸、非住家113戸の浸水被害が発生した。
- かつて無堤部であった岩木川右岸の板柳堤防(板柳町)は平成11年に着手し、総延長8.1kmの堤防が平成25年3月に完成したが、このたび岩木川からの浸水被害は無かった。板柳堤防により約3,100ha、約5,900戸の浸水被害を防いだと推定される。
- 岩木川上流の浅瀬石川ダム(国管理)と目屋ダム(青森県管理)の防災操作によって下流河川の水位を両ダムで約50cm低減させ、また、水防団員などによる“積み土のう工”により鶴田町(河口から34km地点)の堤防越水による氾濫を未然に防ぐことができた。
- 両ダムによる防災操作がなければ、さらに堤防を約30~40cm超える越水となり、鶴田町、板柳町、弘前市への氾濫により、約11,000戸の浸水、約1,900億円の被害が発生したと推定される。

[詳細な速報資料はこちらから](#)

《 記者発表先 : 青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社 》

**【問い合わせ先】**

国土交通省	東北地方整備局 青森河川国道事務所
	副所長(河川担当) 砂子 勉 (内線204)
	調査第一課長 樋川 満 (内線351)
	TEL 017-734-4521 (代表)
国土交通省	東北地方整備局 浅瀬石川ダム管理所
	所長 木村 信悦 (内線201)
	TEL 0172-54-8782 (代表)